

平成28年度第1回土佐清水市総合教育会議 会議概要

■開催日時：平成28年7月26日（火） 13:22～（14:24 終了）

■開催場所：市役所2F 市長応接室

■出席者

構成員：泥谷市長、竹田教育委員長、山下教育委員、三浦教育委員、山本教育委員、弘田教育長

オブザーバー：磯脇副市長

事務局：早川課長、中津課長、山際課長補佐、横山課長補佐

◇会議次第【司会進行：早川課長】

1 開会【泥谷市長あいさつ】

2 議事

（1）土佐清水市教育振興基本計画の中間検証結果報告 【中津学校教育課長説明】

本市の教育大綱に位置付けている「土佐清水市教育振興基本計画（H25～29年度）」が昨年中間年を迎えたことから、検証委員会を立ちあげて検証を行った。

特に防災教育や外国語学習の推進において、講師の招聘、ICTを活用した授業の実施などにより、防災意識の向上、英語力のレベルアップに繋がるものとなった。今後（2年）も継続した取組を実施し、更なるスキルアップを図っていく。

教育環境整備では、清水中学校の移転新築を行ったとともに、清水小学校の改築も現在実施中。学校再編（統合）見直しによる、校舎及び体育館の耐震化が今後の課題となる。

学力向上の取組では、複式学校で^{※1}アクティブ・ラーニングによる複式授業を導入した結果、学力向上に繋がるものとなった。この足摺岬小学校の複式授業は高知県内でも優良事例となっている。

※これまでの実績・課題等をふまえ、H28～H29年の2カ年の後期計画を策定したことから、引き続き「ふるさとを愛し、ジョン万スピリットを持った心豊かな人間づくり」を基本理念として、教育全般に取り組んでいく。

（2）市内小中学校の現状について意見交換

【小学校】

- ・足摺岬小を中心に複式授業に関しては、きちっとした授業ができていた。^{※1}アクティブ・ラーニングのやり方が子どもにいい影響を及ぼしている。
- ・子どもの数が減っているなか、支援が必要な子どもの多さが目立った。
- ・中浜小学校では教科担任制度という新たな取組を行っていた。この結果・成果を検証したうえで、他の学校でも取り入れた方がよい。
- ・学校再編（統合）に際し、小規模校では先生が子どもに厚く手を足すことができていたものが、大規模校になって、その子たちに同じような対応ができるかが課題。

【中学校】

- ・落ち着いて授業ができていた。スポーツクラブ・生徒会活動も活発で、学校の雰囲気良かった。

【共通】

- ・3年前から小学校5年生と中学校1年生の生活習慣病健診を実施しているが、小学校で4割、中学校で7割の生徒が保健指導が必要という結果がでており、対策が必要。脂質・脂肪・肥満、血圧・血糖値

が高いなど、分析すると甘味類やスナック菓子等の過剰な間食などによる食生活の乱れや睡眠不足が原因ではないかと言われている。給食が始まると食育の観点からも少しは解消できるのでは。

(3) 学校再編について

幡陽小と足摺岬小は計画では平成 30 年の統合計画が、地元の同意が得られず「統合しない」という結論となったが、いつまでも反対ということではないので、今後も継続して協議を行う必要がある。

幡陽小は体育館、足摺岬小は校舎の耐震補強が必要となるので、財政状況が厳しい折、費用対効果も勘案し、有利な補助制度の導入による施設整備も検討していく必要がある。

学校統合プランを見直すのであれば議決事項であるため、議会にも説明していく必要がある。計画の見直しについては十分議論しなければならない。

(14:24 会議終了)

※1 アクティブ・ラーニング

教員からの一方的な講義で知識を覚えるのではなく、議論やグループワークなど生徒が主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養う授業方法。